第１回外務省政策会議
（概要記録）

日時：１０月７日　１１：００～１２：００
場所：衆議院第二議員会館　第一会議室
出席議員の概数：７０名程度
議題：（１）岡田大臣の出張報告（国連総会出席、日中韓外相会議、日メコン外相会議）

（２）いわゆる「密約」問題に関する大臣命令について

（３）大臣会見等の基本的な方針について

（４）平成２１年度補正予算について

（５）その他

Ⅰ．外務省政務三役からの報告

１．岡田外務大臣の出張報告（岡田外務大臣）

（１）国連総会出席

（イ）気候変動首脳会合で鳩山総理が行った演説（全ての主要国の参加を前提として、２０２０年までに温室効果ガスを２５％削減）には特に大きな反響があった。国連の日本人職員約１００名と面談した際にも、「胸を張って国連内を歩ける、久しぶりに日本外交の存在感を感じた」との反応に接した。

（ロ）日米首脳会談は首脳間の信頼関係を築くという点において有意義なものであった。待合室にはオバマ大統領自身が現れ、また、鳩山総理が「お礼を申し上げたい。何故なら、オバマ大統領が産み出した「変化」が太平洋を超えて日本でも政権交代を実現する力となったからである」旨発言されたことは、オバマ大統領の胸に響いたようである。首脳会談の前日には、自分がクリントン国務長官との間で具体的な議論を行った。同長官と良好な関係を築いていけるとの心証を得た。

（２）日中韓外相会議

日中韓首脳会議の「荒ごなし」ではあったが、極めて良好な雰囲気の会議であった。また、日中外相会談を行い、その後日本で日韓外相会談を行った。

（３）日メコン外相会議

（イ）これも、１１月に日本で行われる日メコン首脳会議の「荒ごなし」の会合である。低所得国が含まれるメコン川流域国に開発支援を行うことはＡＳＥＡＮの全体の底上げに繋がる。今回の外相会談を踏まえて、首脳間で突っ込んだ議論が交わされることが期待される。

（ロ）ミャンマー外相との会談において、２０１０年に予定される総選挙を、国際社会が納得できるものとするよう、また、スーチー女史の軟禁状態を終了させるよう、

率直に要請した。米国の姿勢も対話路線に変わってきている。

2．いわゆる「密約」問題に関する大臣命令（岡田外務大臣）

（１）外交には国民の理解と信頼が必要である。その観点からいわゆる４つの密約について、徹底した内部調査を行うよう外務大臣命令を出した。

（２）同時に、有識者の会議も設置して本問題の時代背景も含めて検証してもらう。さらに、３０年の経過をもって文書を公開する外交文書の公開基準の見直しも行う。

3．大臣会見等の基本的な方針について（岡田外務大臣）

外務省のプレスへの開放度を更に高める措置を、政治主導で採ることにした。

4．平成２１年度補正予算について（福山副大臣）

資料のとおり。

Ⅱ．質疑応答（１１名の出席議員が発言）

1．いわゆる「密約」・外交文書の管理

（質問・コメント）

・ しっかりと調査し、国民に対する知的誠実さを回復することが重要。
・ 北朝鮮との関係もあり、核の抑止力保持という視点も重視してほしい。
・ 米側には、今回の調査に関する日本側の意図がしっかり伝わるようにしてほしい。
・ 外交文書の管理のあり方についても、これを機に検証してほしい。そのことが、外交に対する評価にも繋がっていく。
・ 調査チームから、何らかの中間報告はあったのか。

（回答：岡田大臣）

・ いわゆる「密約」に関する文書は、全て調査・報告せよと指示している。その他の外交文書の公開も進めたいが、現実的にはステップ・バイ・ステップで進めていかざるを得ない面もある。
・ 「密約」の背景についても、有識者の会議を中心に検証したい。
・ 外交文書公開基準の見直しについては、「密約」の調査終了後になる。
・ 調査チームからの中間報告はまだ受けていない。必要に応じて求めていく。

2．普天間基地の問題

（質問・コメント）

・ 沖縄の負担を減らすため、普天間基地の問題については早く方向性を出してほしい。

（回答：岡田大臣）

・ クリントン国務長官とは、日米の新政権がこれまでの合意をお互いに検証しようということになっている。
・ アフガニスタン・パキスタンへの支援等を含め、全体のパッケージの話にならざるを

得ない。

3．北朝鮮・拉致問題

（質問・コメント）

・ 鳩山総理が「対話」と「協調」と言っている中で、岡田大臣は総理の発言の修正を求めたとも聞いている。

・ 旧政権は、北朝鮮問題について都合の良い情報しか公開していないのではないか。

（回答：岡田大臣）

・ 北朝鮮側が再調査をしっかり行うなど問題解決に向けた取組を行うことが「対話」の前提となる。この点について、鳩山総理との間に認識の齟齬はない。

4．補正予算

（質問・コメント）

・ 今回の補正で、難民申請中の方々に対する生活支援のための予算要求はしているのか。

（回答：福山副大臣）

・ 補正ではそのような要求はしていないが、来年度予算では増やす必要があるとの認識。

・ 中長期的には、難民支援について、申請中は外務省、認定後は厚労省が担当するという現制度が適正か、また、実施団体の適正という点について、それぞれ検討したい。

5．ＮＧＯ／ＮＰＯとの関係

（質問・コメント）

・ ＮＧＯ／ＮＰＯとの連携を図る場は、この政策会議なのか。

（回答：岡田大臣）

・ ＮＧＯ／ＮＰＯとの連携は重要であり、この政策会議でも連携を図っていきたいし、党としてもそうすべきである。具体的な方法については党とも相談したい。

6．外交戦略・政策議論

（質問・コメント）

・ 日本の外交戦略を作成してほしい。

・ 世界は転換期にある。これまではブッシュ大統領のドクトリンがあった。現在は米も新政権になり、様々な再定義が行われている。

（回答：岡田大臣）

・ この政策会議においても、大いに外交戦略の議論を行いたいし、議員諸氏の積極的な提言も歓迎する。

＜配付資料をファイルで添付＞　　　　　　　　　　　　　　　　（以上）